

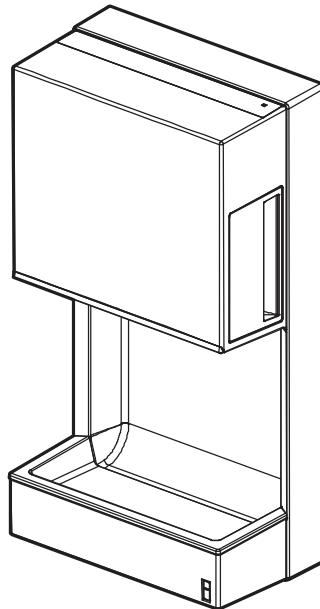
施工説明書

ハンドドライヤー スピードジェット

KS-580A (100V ヒーターなし)
KS-580AH (100V ヒーターあり)

もくじ

| | |
|-------------|----|
| 安全に関するご注意 | 2 |
| 各部の名称 | 5 |
| 施工前の確認事項・準備 | 6 |
| 施工方法 | 10 |
| 試運転 | 16 |
| 引渡前の確認 | 16 |



このたびは当社商品をお買い求めいただき、誠にありがとうございました。

- この施工説明書をよく読み、正しく本商品を施工してください。
- 施工後は必ず正常に作動することをご確認ください。
- お客様に必ず本書と取扱説明書をお渡しください。

●施工手順

コンセントを使う場合

1. ドレンタンクの取外し 10
2. 取付板の固定 10
3. 本体の固定 11
4. ドレンタンクの取付け 11

専用配線工事の場合

1. ドレンタンクの取外し 12
2. 配線工事 12
3. 取付板の固定 13
4. 本体パネルの取外し 13
5. 電源プラグコードの取外し 14
6. 電源ケーブルの挿入 14
7. 速結端子への結線（極性なし） 14
8. 速結端子カバーの取付け 15
9. 本体の固定 15
10. ドレンタンク、エアフィルターの取付け 15

安全に関するご注意

安全のために守ってください！

ハンドドライヤーを安全に取り付け、使用時の事故を回避するための注意事項をあげさせていただきます。

取付前に、この項目をよくお読みいただき、事故のないように正しく取り付けてください。

(用語および記号の説明)

警告 「取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。」

注意 「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うか又は物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」

 「注意しなさい！」（上記の『警告』『注意』と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。）

 禁止 「この表示は、してはいけない「禁止」の記号です。」

 指示実行 「この表示は、必ず実行していただく「強制」の記号です。」

 水場禁止 「バスルームやシャワールームなどの水場で使用してはいけません！」

 分解禁止 「分解してはいけません！」

⚠ 警告

配線工事、電源接続工事は関連する法令・規程に従って、必ず「有資格者」が行ってください。

※接続や固定が不完全な場合は、火災や漏電の恐れがあります。



修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造は行わないでください。

※発火や感電をしたり、異常作動してケガをする恐れがあります。



バスルーム等の水のかかる場所や、表面に水滴を生じるような湿気の多い場所、結露する場所には設置しないでください。

※発火、ショート、感電、故障の恐れがあります。



安全に関するご注意

⚠ 警告

交流 100V 以外では使用しないでください。
※火災・感電の原因となります。



禁止

定格 15A 以上・交流 100V の専用コンセントを単独で使用してください。
※火災、感電の原因となります。(コンセント接続の場合)



指示実行

電源には漏電遮断器を取付けてください。
※感電の恐れがあります。



指示実行

【故障が発生した場合、電源プラグを抜き（専用配線直結の場合は、ブレーカーなど元電源を切って）、修理を依頼してください。
※そのまま使用すると発火、ショート、感電の原因となります。



指示実行

電源コード、電源ケーブルを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っぱったり、ねじったり、束ねたり、重いものを載せたり、挟み込んだりしないでください。

※電源コード・電源ケーブルが破損し、発火、ショート、感電の原因となります。



禁止

電源コード、電源ケーブルや電源プラグが傷んだり、コンセントへの差し込みがゆるいときは使用しないでください。

※発火、ショート、感電の原因となります。



禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜いてください。濡れた手で持たないでください。

※発火、ショート、感電の原因となります。(コンセント接続の場合)



指示実行

屋外へは取り付けないでください。
※火災・感電の原因となります。



禁止

塩害地域および腐食性・中性・還元性ガスのあるところには設置しないでください。

※発火、ショート、故障の恐れがあります。また、機器の寿命が短くなります。



禁止

安全に関するご注意

⚠ 注意

製品（電源ケーブル）に通電した状態で取付工事をしないでください。
※感電のおそれがあります。



禁止

本体の取付工事は、十分強度のあるところを選んで確実に行ってください。
※落下によりけがをするおそれがあります。



指示実行

取り付けの際は手袋を着用してください。
※着用しないとけがをする恐れがあります。



指示実行

直射日光が当たる場所には設置しないでください。
※誤動作したり、プラスチック部品が劣化し破損する恐れがあります。



禁止

使用時に吹き飛んだ水滴が、壁面や床面に付着しても悪影響を受けないところに取り付けてください。
※水の付着により壁面や床の汚れ、はがれの原因となります。

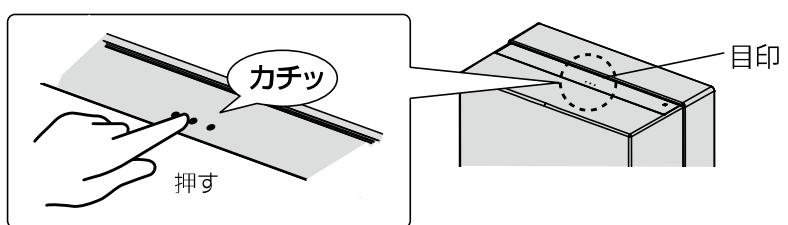


指示実行

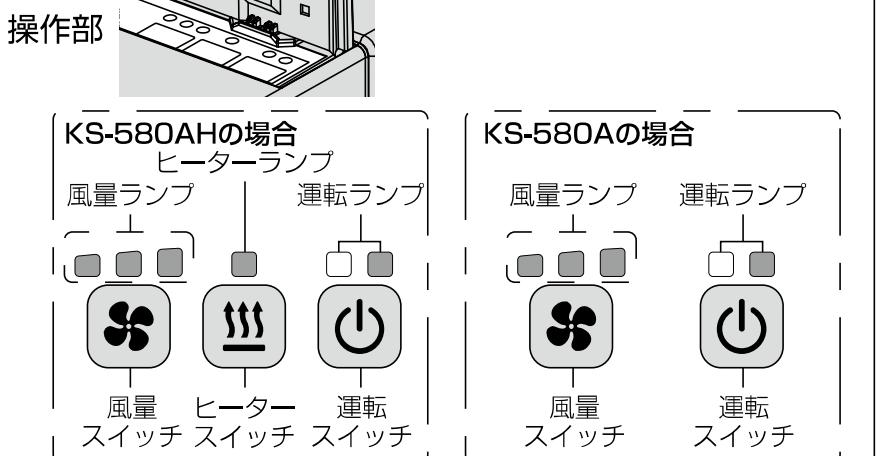
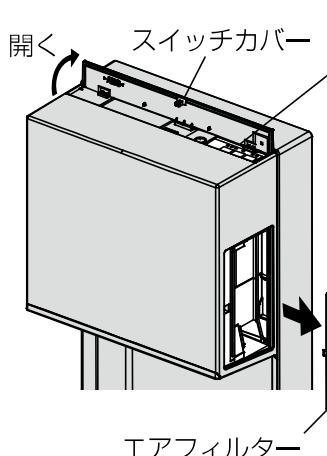
各部の名称

スイッチカバーの開け方

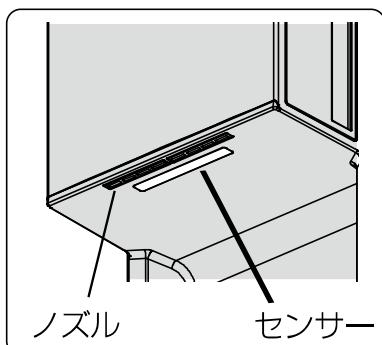
- ①目印位置(….)を力チツというまで押す。
- ②開く



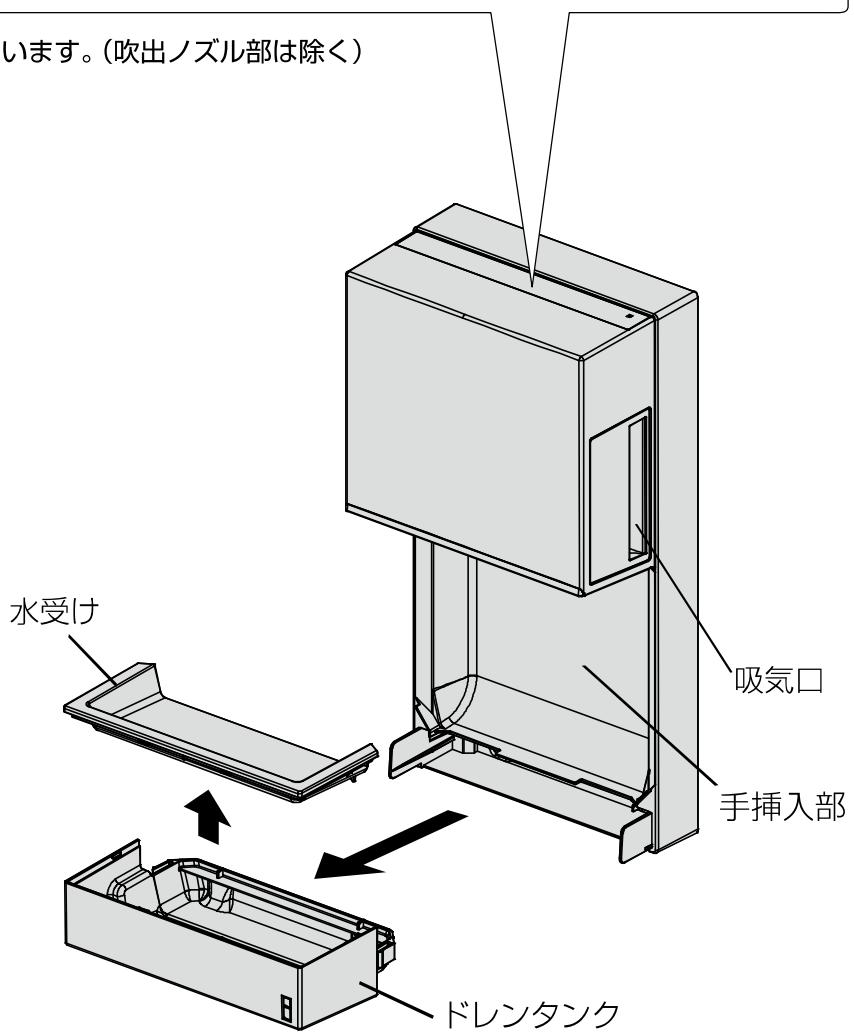
スイッチカバーの内部



※図の網かけ部分は抗菌加工しています。(吹出ノズル部は除く)



| 付属部品 | |
|------------|----------------------|
| 取付ネジ | 6本 (5×30タッピング1種) |
| | |
| 取付板 | 1個 |
| | |
| 固定ネジ(4×14) | 1本 ※専用配線工事の場合、使用。 |
| | |
| コードクリップ | 1個 ※専用配線工事の場合、使用。 |
| | |



施工前の確認事項・準備



警告

●交流100Vで使用する

間違った電源を使用すると火災・感電・故障の原因になります。

■つぎのような場所には取り付けないでください。

※故障の原因になります

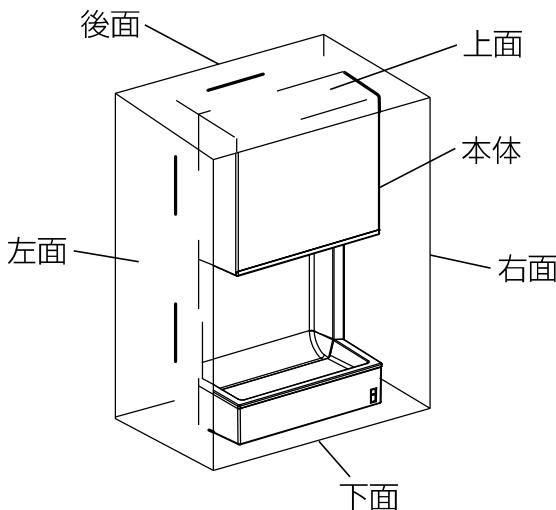
- 0°C未満になる場所
- 40°C以上になる場所
- 塩害地域
- 温泉地域
- ほこりの多い場所
- 結露する場所
- 乗り物
- 直接水がかかる場所
- 腐食性ガス・中性ガス・還元性ガスが存在する場所
- 日光・強い光があたる場所（センサーが誤作動する恐れがあります）
- 屋外
- 食材・食器等の近く（水滴がかかる恐れがあります）
- 廉價な部屋・プール・浴室

■取付位置について

- 使用しやすいようにP.8「取付完了図」の位置に取り付けてください。取付高さが低いと洗面台掃除の際、水がかかりやすくなります。本体内部に水を吸い込んだ場合には、故障の原因や吸音材が吸湿して菌が繁殖する場合があります。
- 本体上部は施工、スイッチの操作をするうえで障害になるものがないように150mm以上あけてください。
- 下方はお手入れするうえで障害になるものがないようにそれぞれ50mm以上あけてください。
- 本体側面の近くに鏡および壁等のないようにしてください。手乾燥時、水滴が飛ぶことがあります。本体側面と壁との間は必ず100mm以上あけてください。
- 人がぶつかりやすい場所やドア等があたる場所は避けてください。
- 製品を取り付ける壁は、段差のない平らな場所を選び取り付けてください。コンクリート壁以外の壁は補強を行ったうえで取り付けてください。
- 本体を埋め込んで取り付けないでください。
- 洗面台の高さが800mmを超える場合は取り付けないでください。
(使用しにくくなるおそれがあります。)

施工前の確認事項・準備

■建物の壁面等からの離隔距離は下表に掲げる数値以上の距離を保ってください。



| 場所 | 離隔距離 |
|----|-------|
| 上方 | 150mm |
| 左方 | 100mm |
| 右方 | 100mm |
| 前方 | 開放 |
| 下方 | 50mm |

■取付壁条件

[乾式壁の場合]

- ①壁面への取付は付属の木ねじ（ $\phi 5 \times 30$ ）をご使用ください。
- ②ねじ込み深さが 15 mm以上になるように取付木（補強木）を設けてください。
- ③石こうボード等のボード張りには木ねじはききません。必ずあらかじめ壁面に取付木を入れ、ねじ込み深さを確保してください。
- ④ボード張りの厚さは 12.5 mm以下を想定しています。厚さが 12.5 mmを超える場合は、超えた分だけ長い木ねじを別途用意ください。

[湿式壁の場合]

- ①壁面への取付はAY ボルト（別売AY-84）を使用してください。
- ②下地はコンクリートとし、取付部の奥行は 70 mm以上（コンクリートの厚さは 40 mm以下）を確保してください。
- ③壁仕上材（モルタル、モルタル+タイル等）の厚さは 20 mm以下としてください。
- ④木すり下地、ラスターボード下地への取り付けは乾式壁と同じようにあらかじめ壁裏に取付木（補強木）を入れ、必要なねじ込み深さを確保してください。

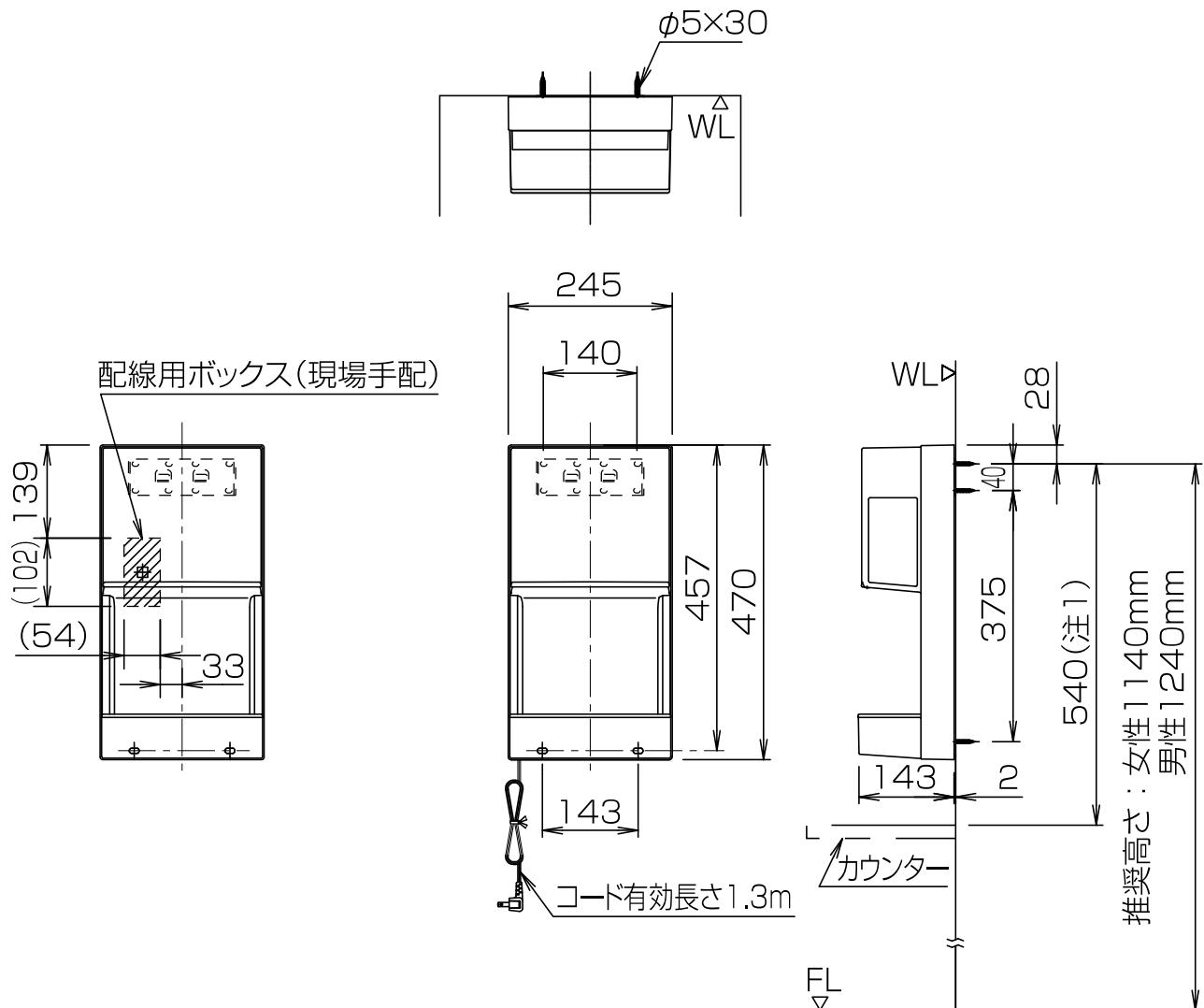
[パーテーション壁の場合]

- ①壁面への取付は付属の木ねじ（ $\phi 5 \times 30$ ）をご使用ください。
- ②木ねじの固定位置に 30 mm以上の取付木（補強材）を入れておいてください。
- ③既設の壁に取り付ける場合、壁を貫通できる長さの M5 のボルト、ナットとステンレスの平板等（現場手配）で壁を挟み込んで固定してください。

施工前の確認事項・準備

■取付完了図

【KS-580A, KS-580AH】



注1：カウンター上設置の場合の標準高さです。

専用配線（電源直結式）の場合

（施工時に電源コードを外すことで）
（電源直結式として使用できます。）

施工前の確認事項・準備

■仕様

【KS-580A、KS-580AH】

| 品番 | KS-580A | KS-580AH |
|-----------|-----------------------|--|
| 風速 | 強：110m/s、弱：65m/s | |
| 吹き出し | 片面ジェット乾燥 | |
| 乾燥時間 | 強：約6～10秒 弱：約18～27秒 | 強：約5～9秒 弱：約15～24秒 |
| 運転音 | 強：58 dB、弱：50 dB | |
| 電源 | AC100V 50/60Hz | |
| 定格消費電力 | 強：360W、弱：130W | ヒーター入 強：590W、弱：330W (ヒーター切 強：360W、弱：130W) |
| 待機電力 | 0.4W以下 | |
| 電源コード有効長さ | 1.3m (連結端子も接続可) | |
| モーター | 整流子モーター | |
| ヒーター | — | PTCヒーター |
| 安全装置 | 温度ヒューズ 過電流遮断機能 | |
| 風量切替 | 強・中・弱の3段階 | |
| ヒーター切替 | — | 入・切 |
| 外形寸法 | 幅245×奥行143×高さ470 | |
| 部品重量 | 約4kg | |
| カバー材質 | 全面抗菌入りABS樹脂（一部除く） | |
| 水受け部 | あり (0.6L) | |
| モーター寿命 | 400回/日使用で7年(概算) | |

施工方法

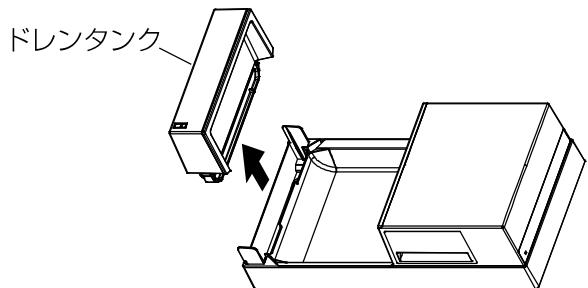
取付はコンセント式の場合と専用配線工事の場合があります。

コンセントを使う場合

※専用配線工事の場合は
P.12へ進んでください。

1. ドレンタンクの取外し

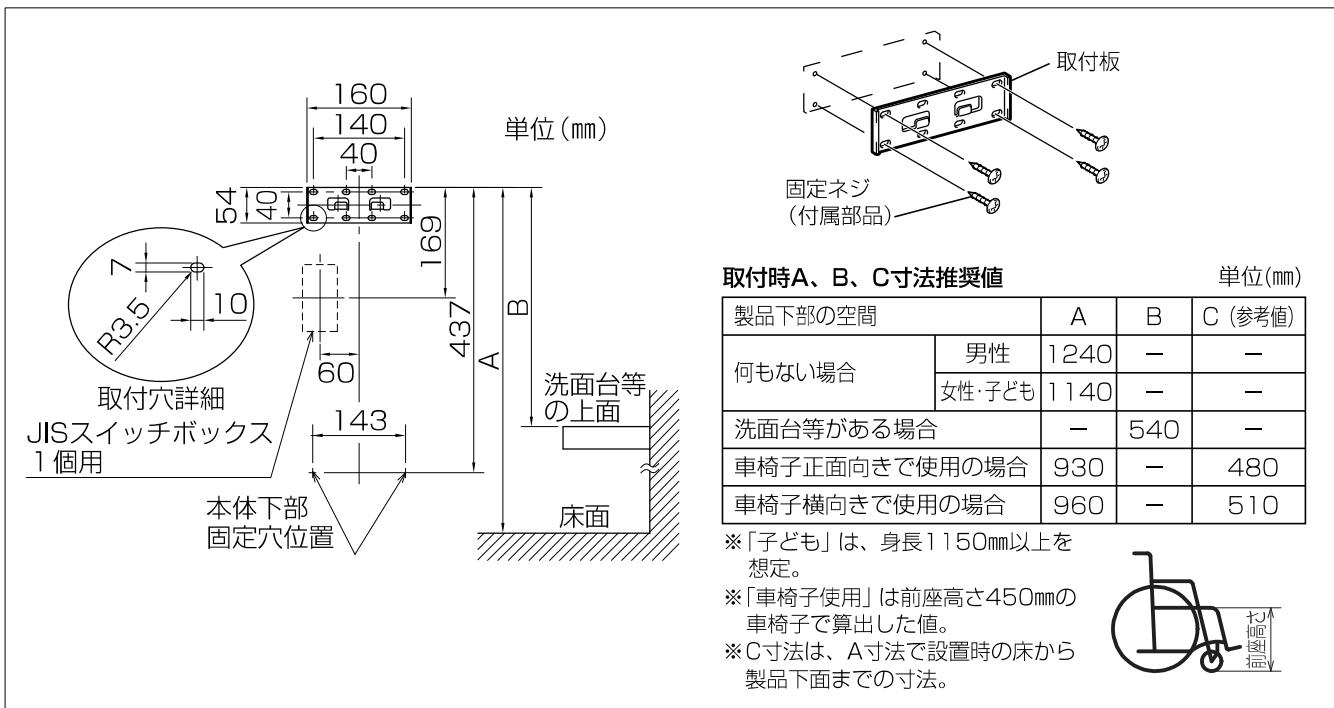
ドレンタンクを取り外す。



2. 取付板の固定

取付板を付属の取付板固定ねじ（4本）で壁に固定する。

- 下図に示す取付板固定ねじの位置は推奨です。
- コンクリート壁に取り付ける場合は、AYボルト（AY-84（別売））を4個手配して、取り付けてください。
- コンクリート壁以外の壁は、補強を行ったうえで取り付けてください。



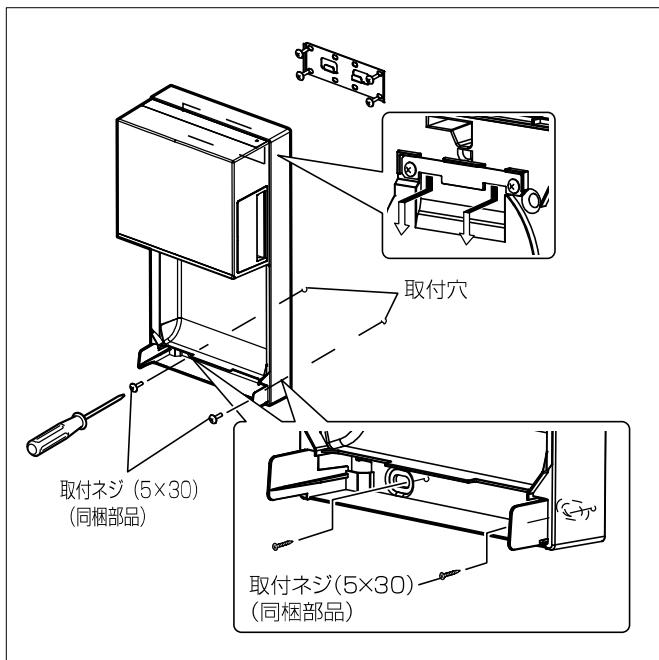
施工方法

3. 本体の固定

取付板の引掛部（2ヶ所）に本体背面を引っかけ、本体を壁側に軽く押し付けながら付属の取付ネジ（5×30）2本で固定する。

- コンクリート壁に取り付ける場合は、AYボルト（AY-84（別売））を2個手配して取り付けてください。
- コンクリート壁以外の壁は補強を行ったうえで取り付けてください。
- コンクリート壁に取り付ける場合は、前パネルをベースに取付ける前に下記の手順で取り付けてください。

- ①取付板に本体を仮置きする
- ②取付ネジの穴からペンなどで壁に穴位置をマークイングする
- ③本体を取りはずし、マークイングした位置にコンクリート用ドリルで下穴をあけてAYボルトを打ち込み本体を取付ネジで固定する



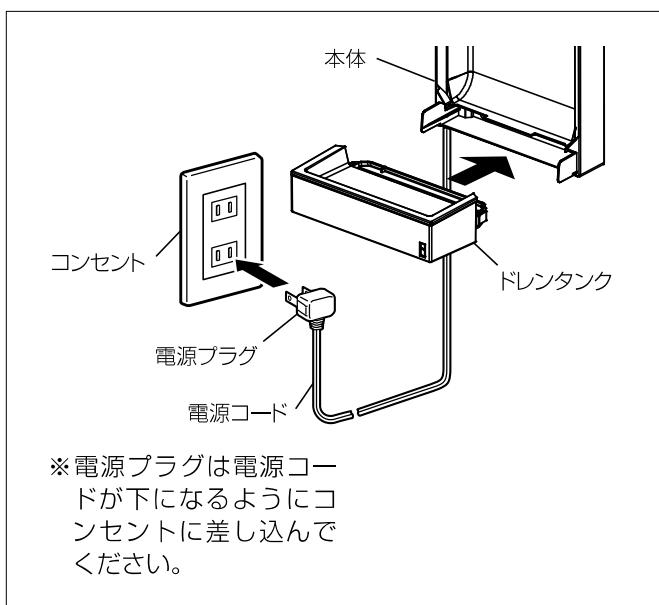
4. ドレンタンクの取付け

1. ドレンタンクを元通り取付ける。
2. 電源プラグを専用コンセント（交流100V）に接続する。



●交流100Vで使用する

間違った電源を使用すると火災・感電・故障の原因になります。



※電源プラグは電源コードが下になるようにコンセントに差し込んでください。

P.16へ進んでください。

施工方法

専用配線工事の場合

!**警告**

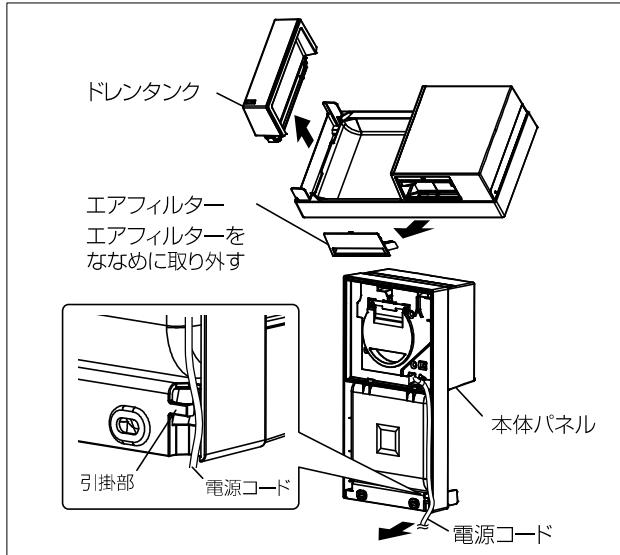
| | | | |
|--|--|---|--|
| 交流100V以外では使用しないでください。 ※間違った電源を使用すると火災、感電、故障の原因となります。 |  指示実行 | 製品（電源ケーブル）に通電した状態で取付工事をしないでください。 ※感電する恐れがあります。 |  禁止 |
| 電源線は確実に接続してください。 ※不確実な接続をすると接続部が過熱し、火災の恐れがあります。 |  指示実行 | 配線工事、電源接続工事は、関連する法令・規程に従って、必ず有資格者が行ってください。 ※接続や固定が不完全な場合は、火災や漏電の恐れがあります。 |  指示実行 |
| 電源線は確実に固定してください。 ※搖れによる摩擦で被覆が破れた場合、感電や火災の原因となります。 |  指示実行 | | |
| 電源ケーブルは、単線φ2またはφ1.6のVVFケーブルを使用してください。 (電源ケーブルが11mを超える場合には、電圧降下を考慮して、極力φ2の電源ケーブルを使用してください。) ※対応配線仕様以外の配線（より線、より線+端子など）で接続されますと、接続不良により接続部が加熱し、器具・配線の溶損・焼損・火災に至ることがあります。 | | | |

1. ドレンタンクの取り外し、エアフィルターを取り外す。

1. ドレンタンクを取り外す。

2. エアフィルターを取り外す。

本体パネル裏の下側に電源コードが引掛けであるので引掛部からはずす。

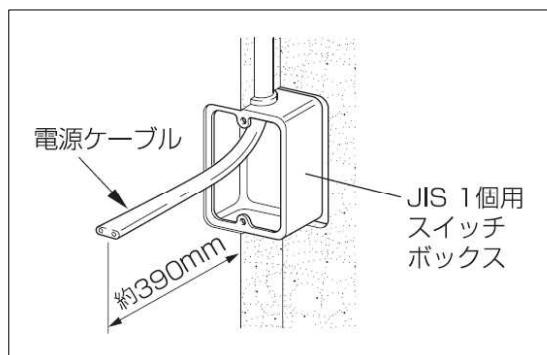


2. 配線工事

配線工事をする。

- 取付位置にスイッチボックス（JIS C 8340 1個用スイッチボックスカバーなし）を埋め込み、電源ケーブルを配線する。

※スイッチボックスを使用しないと、電源ケーブルが本体を押し出してうまく取付けられません。

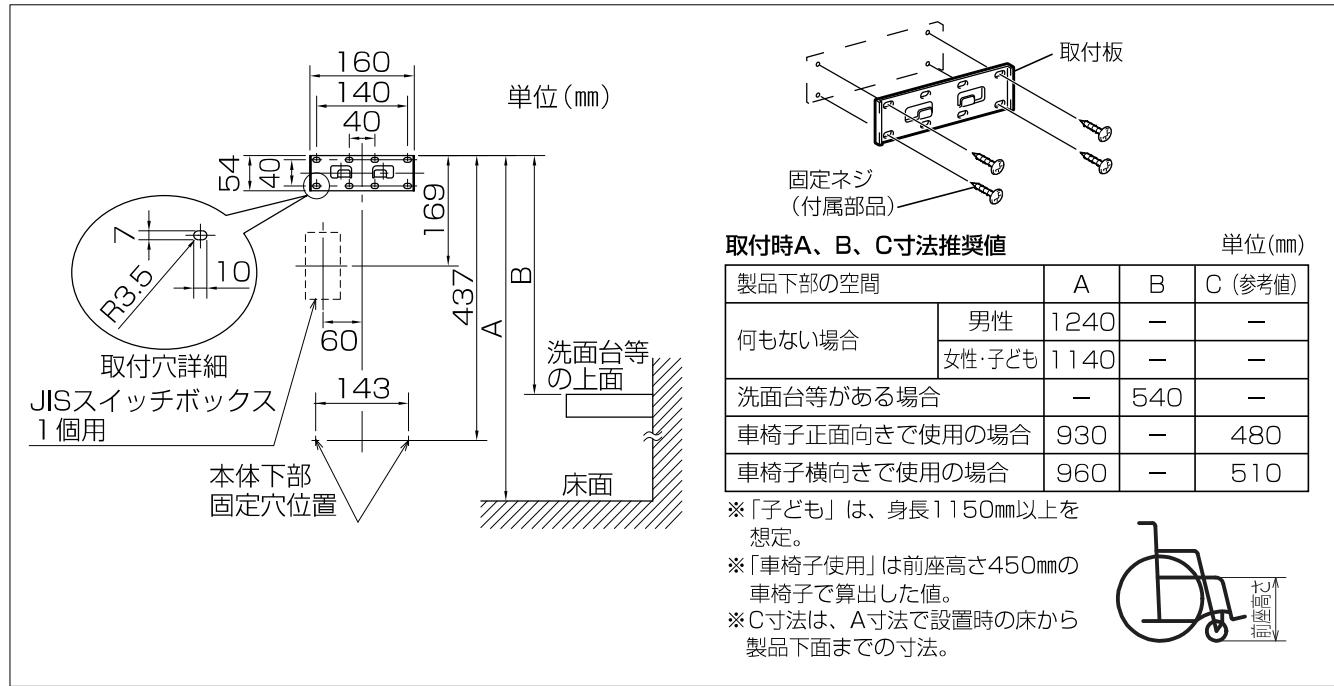


施工方法

3. 取付板の固定

取付板を付属の取付板固定ねじ（4本）で壁に固定する。

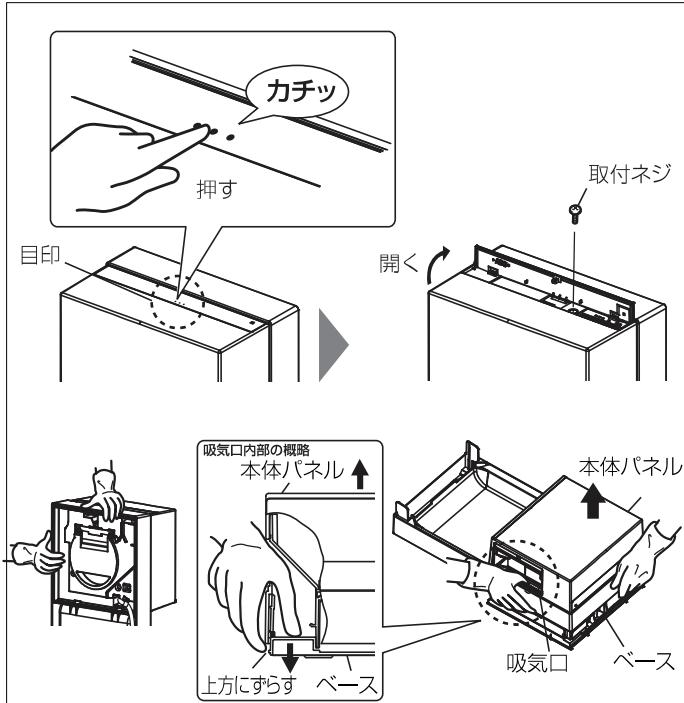
- 下図に示す取付板固定ねじの位置は推奨です。
- コンクリート壁に取り付ける場合は、AYボルト(AY-84(別売))を4個手配して、取り付けてください。
- コンクリート壁以外の壁は、補強を行ったうえで取り付けてください。



4. 本体パネルの取外し

本体パネルを取りはずす。

- (1) スイッチカバーを開き、取付ネジ（1本）をはずし、スイッチカバーを閉じる。
- (2) 右図のとおりに本体上側および右側（吸気口）に指をかける。
- (3) 本体をねかせ、吸気口に指を入れ、本体内部のベースを内側から押しながら本体パネルを上方にずらし、固定を外す。
※本体パネルを取りはずす際は指をはさまないように注意してください。けがをする恐れがあります。
(棒状のものを使う場合はベースや本体パネルを傷つけないよう注意してください。)



次ページに続く

施工方法

5. 電源プラグコードの取り外し

1. 速結端子カバーを取り外す。

速結端子カバー取付ネジ（1本）を外し、速結端子カバーを手前に引き出す。

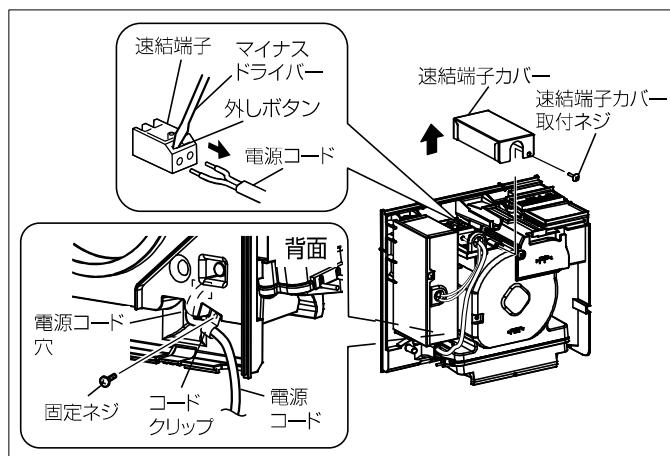
※コードブッシュはなくさないでください。

2. 速結端子に接続されている電源コードを外す。

速結端子の外しボタンをマイナスドライバーで押しながら電源コードを引張って外す。

※確実に外しボタンを押してください。無理に引張ると速結端子が壊れる恐れがあります。

3. 本体背面のクリップを外し、電源コードを引き抜く。

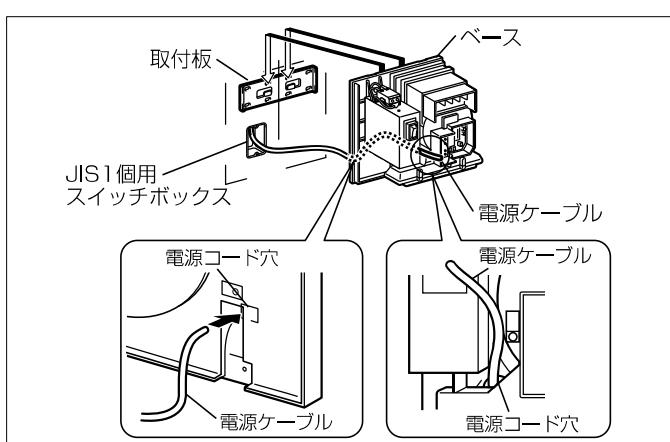


6. 電源ケーブルの挿入

1. 専用配線の電源ケーブルを本体内に引き込む。

本体背面の電源コード穴に専用配線の電源ケーブルを通す。

2. 取付板に引掛ける。



7. 速結端子への結線（極性なし）



●交流100Vで使用する

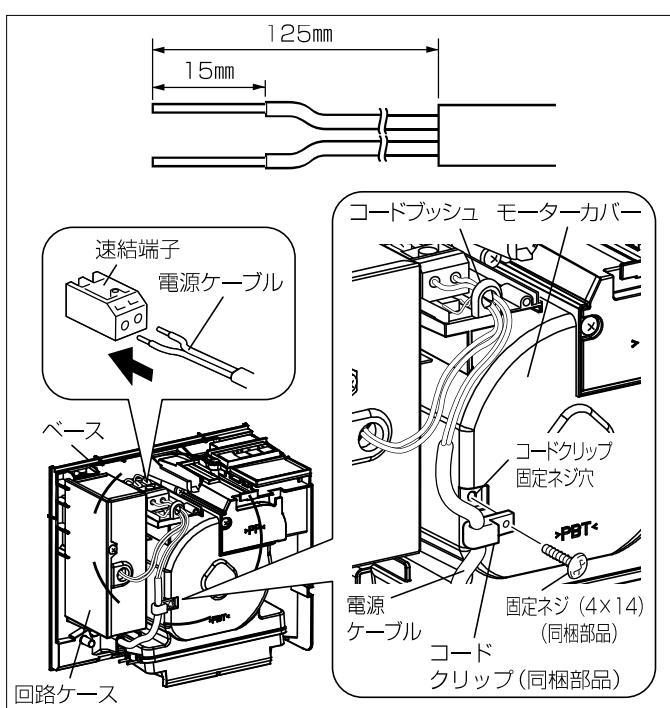
間違った電源を使用すると火災・感電・故障の原因になります。

1. 速結端子に結線する。（極性なし）

●ベースは壁にネジ固定されていないので本体落下に注意してください。

- (1) 速結端子にあるゲージに合わせて、電源ケーブルの被ふくを 15 mm 皮むきする。
- (2) 電源ケーブルを速結端子に確実に差し込む。
- (3) 速結端子への結線が確実に差し込まれているか確認する。電源ケーブルは必ず単線のものを使用してください。より線をハンダ付けして速結端子に差し込まないでください。（火災、感電、故障の原因になります）

2. 右図のコードクリップをはずして、電源ケーブルをコードクリップに固定ネジで固定する。

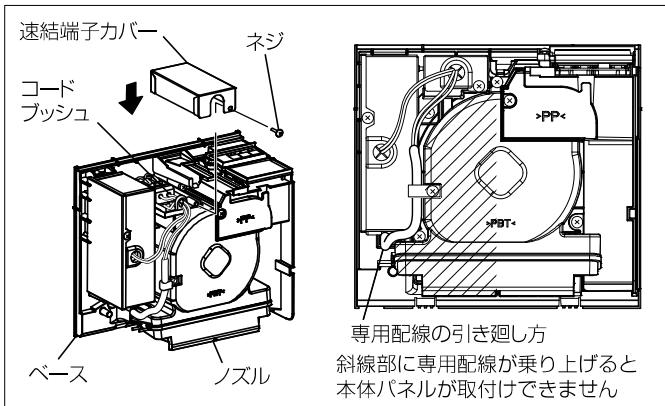


施工方法

8. 速結端子カバーの取付け

速結端子カバーを取付ける。

- (1) 電源ケーブルをコードブッシュに通して速結端子カバー取付ネジで元通り本体に取付ける。
- (2) 電源ケーブルおよび電線をはさみ込んでいないことを確認する。



9. 本体の固定

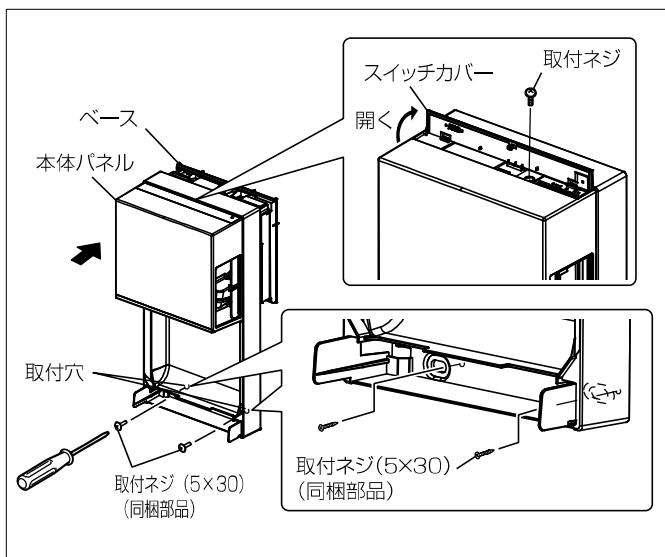
1. 本体パネルを取付ける。

- ベースに合わせて本体パネルをベースに差し込み、ネジ1本で取付ける。
(ネジはスイッチカバー内側にあります)
※本体パネル挿入時はスイッチカバーを閉じてください。

2. 本体を固定する。

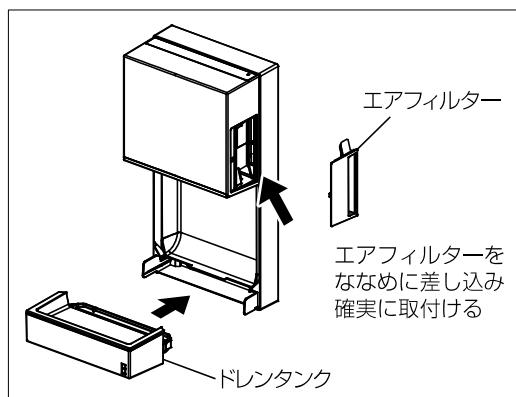
- 本体を壁側に軽く押しつけながら付属の取付ネジ2本で固定する。
- コンクリート壁に取り付ける場合は、AYボルト(AY-84(別売))を2個手配して取付けてください。
 - コンクリート壁以外の壁は補強を行ったうえで取付けてください。
 - コンクリート壁に取付ける場合は、前パネルをベースに取付ける前に下記の手順で取付けてください。

- ①取付板に本体を仮置きする
- ②取付ネジの穴からペンなどで壁に穴位置をマークイングする
- ③本体を取り外し、マークイングした位置にコンクリート用ドリルで下穴をあけてAYボルトを打ち込み本体を取付ネジで固定する



10. ドレンタンク、エアフィルターの取付け

1. エアフィルターを本体側面に取付ける。
2. ドレンタンクを取付ける。



試運転

■P.5の「各部の名称」を参考に以下の確認を行ってください。

| | 手 順 | 確認内容 | チェック |
|---|-------------------------------------|--|------|
| 1 | 電源電圧を確認する | AC100Vを使用していますか？ | |
| 2 | 電源プラグをコンセントに差し込む または漏電遮断器を「入」にする | 電源プラグは確実に差し込まれていますか？ | |
| 3 | 運転スイッチを「ON」にする | 表示部の運転ランプは点灯していますか？ | |
| 4 | 手を入れて乾かす | 風が吹き出していますか？ | |
| 5 | 手を入れたまま風量スイッチを押す | 風量が変わりますか？ | |
| 6 | ヒータースイッチを入れる (KS-580AHのみ) | 表示部のヒーターランプは点灯していますか？ 温風は吹き出ていますか？(室温が約30℃以上や連続して使用した場合、ヒータースイッチを「ON」にしても簡易ヒーターは動作しません) ※簡易ヒーターのため、室温が低い(室温 20℃以下)と温風感が損なわれます。 | |
| 7 | | 本体の取り付けが確実で、振動・異常音はありませんか？ | |

※手を入れた状態で運転スイッチを「ON」にしないでください。正常に作動しないことがあります。

※表示部の運転ランプが点灯または点滅状態のときは、運転スイッチを一旦「OFF」にして、表示部のランプが全て消灯したのを確認した後1分経過した後に再度「ON」にしてください。

※風量／ヒーターランプの点灯は約10秒たつと消灯します。再度風量スイッチまたはヒータースイッチを押すと、設定時の表示ランプが点灯します。(ヒーターランプ、ヒータースイッチはKS-580AHのみ)

引渡前前の確認

■引渡前および故障時の点検は以下の要領で行ってください。

[故障と点検]

| 現 象 | 点 検 | 処 置 |
|------------------|---|--|
| 手を入れても 風が出ない | 表示部のランプは点灯していますか？ 停電ではありませんか？ | •漏電遮断器を「入」にします。 •コンセントプラグを差し込みます。 (コンセント式の場合) •運転スイッチを「ON」にします。 |
| | 手の入れ方が不十分ではありませんか？ | •手挿入部の奥まで入れ直します。 |
| | 手挿入部に手を入れたまま、運転スイッチを入れていませんか？ センサーに異物、汚れが付いていませんか？ | •運転スイッチを「OFF」にして、表示部のランプが消灯してから異物や汚れを取り除きます。運転スイッチ「OFF」から1分以上経過したことを確認し、再度運転スイッチを「ON」にします。 |
| 風が止まらない | 運転スイッチON時、または運転スイッチON後1秒以内に手等を挿入されるとセンサー感度が異常となり手を抜いても止まらなくなる場合があります。 ドレンタンクを抜いたまま運転スイッチを入れるとセンサー感度が異常となり、手を抜いても止まらなくなります。 | |
| 温風にならない | ヒータースイッチが「切」になっていませんか？ (ヒーター付の場合) ※室温が低い(20℃以下)と温風感が損なわれます。 | •ヒータースイッチを「入」にします。 |
| 点検ランプが 点滅している | 電源に異常があると点灯または点滅することがあります。 運転スイッチON時、または運転スイッチON後1秒以内に手等を挿入されると点検ランプが点滅または早点滅することがあります。 | •運転スイッチを一旦「OFF」にして、表示部のランプが全て消灯したのを確認した後(約1分後)に再度運転スイッチを「ON」にします。 |

※上記点検・処置をされても故障が直らない場合は下記手順を行い停止させ、LIXIL修理受付センターへご相談ください。

●コンセント式の場合：運転スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。

●専用配線の場合：運転スイッチを切り、漏電遮断器を切ってください。